

自社の強みを把握しよう～SWOT分析～

知的財産を「経営」に活かすために、まずは自社の「強み」や「弱み」を把握しておくことが必要です。

自社の特徴を整理するための分析手法に、「SWOT分析」という手法があります。社員の意見、顧客の意見、外部専門家の意見等も参考にしながら、客観的な分析を行うことが重要です。

知的財産を「経営」に活かすためにも、まず、SWOT分析で自社の特徴を把握し、今後どのような経営を進めていくのか等の経営方針を明確にすることからはじめましょう。



SWOT分析

企業の現状分析を行うための代表的な手法の1つです。企業の強み（Strength）、弱み（Weakness）、機会（Opportunity）、脅威（Threat）の4つの要素から分析するため、頭文字をとって、SWOT分析といわれます。

企業の現状分析を行うにあたっては、一側面からではなく、多面的な視点で分析を行うことが重要です。SWOT分析では、自社の内部環境と自社を取り巻く外部環境の両面から分析します。

自社の強みを把握しよう～知的財産の把握～

「知的資産」とは、「人材、技術、技能、知的財産（特許・ブランド等）、組織力、経営理念、顧客とのネットワーク等の財務諸表には表れてこない目に見えにくい経営資源の総称」を指し、「知的財産」よりも広義な意味で使われます。

企業経営においては、「知的財産」だけに留まらず、より広い視点で、「無形の強み」を把握し、経営に活用していくことが重要です。

特許だけではなく、顧客との関係や、地域とのネットワーク等も強みの1つとして捉え、自社の強みは何かを把握するようにしましょう。

以下のものも立派な知的財産

- 製造段階での「すりあわせ」に代表される製品の細部への技術・ノウハウ
- 品質や中長期的な安定的存在感、中期的な取引関係等にもとづく信頼に裏打ちされた商品、サービス、企業のブランド力
- レベルの高い従業員のモチベーションの維持、能力の発揮、及びそれを可能にしてきた雇用・組織関連のシステム